

「まさか失礼なことをしましたか」

「初めまして。私はイリスです。よろしくお願いします。」

日本に来たばかりのころ、知り合いに日本人の女の子を紹介された時のことです。目が大きくてかわいい女の子でした。私は日本語を間違えないように気をつけながらあいさつをしました。

すると、彼女はびっくりして、大きい目がもっと大きくなりました。私、まさか失礼なことをしましたか。汗をかいて、すごく心配になりました。自分がしたことを一つ一つ思い出してみると「あ！それだ！」とやっとわかりました。

じゃ、私は何をしたのでしょうか。私は彼女に「キス」をしたのです。スペインでは初めて会った人とあいさつするとき、頬に「チュッチュッ」と二回キスをするものです。日本人にとっては、このような習慣がないので恥ずかしいかもしれません。

スペインのあいさつのしかたを説明したら、彼女は笑って、理解してくれました。あいさつのしかたは国によって違うにきまっています。よく考えると、日本とスペインの一番の違いは「体のコミュニケーション」だと思います。スペイン人にとって体のコミュニケーションは絶対に必要です。なぜなら、「あなたを受け入れます」、「仲良くしましょう」という気持ちをお互いに伝えるサインだからです。逆に、されない「私って嫌われてるの？」と心配になってしまいます。

一方、日本人には距離が必要です。適度な距離を取るのは、「相手のテリトリーを尊重する」という意味があるようです。つまり、体に触らないことこそ、「思いやりのサイン」なのではないでしょうか。

じゃあ、初めて会った人とあいさつをするとき「日本では一体どうすればいいのかな～」と気になりました。そこで日本人の様子をよく観察してみました。このぐらい（50センチぐらい）あけて、軽くほほえみをうかべ、頭を少し下げたら…パーフェクトです。

みなさんも、日本で私のように「まさか失礼なことをしましたか」と思うこともあるでしょう。でも、それは失敗ではなく、「ふるまい」の文化の違いを知らなかっただけです。日本人と会話をする時、言葉よりも、その場に適したふるまいが大切になることもあります。

「ふるまい」とは、体を全部使って発信する、いわゆる一つの言語です。相手に触ること、相手との距離を考えること、微妙な顔の表情を作ること…など、体験があってこそ、これらをうまく使い分けられます。

そして、日本にいる今しかこの「使い分け」を勉強するチャンスはありません。相手を思いやる気持ちさえ忘れなければ、たとえ間違っても大丈夫です！さあ、みなさんも私と一緒に「ふるまいの勉強」を頑張りましょう！（投げキッス）

「あ…私失礼なことをしましたか？」